

9月9日 教育を攻撃から守る国際デー
参加型オンラインイベント

紛争下の教育を攻撃から守ろう

～写真や数値を見て、あなたはどう考えますか？～

Save the Children　HUMAN RIGHTS WATCH

2019年7月、シリア・イドリブ県にて、破壊された教室で黒板に字を書く少年
© 2019 Save the Children's partner in Syria, Hurras Network.

主 催

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
国際人権団体 ヒューマン・ライツ・ウォッチ

協 力

国連広報センター
JNNE（教育協力NGOネットワーク）

今年5月、国連総会は、毎年9月9日を「教育を攻撃から守る国際デー（International Day to Protect Education from Attack）」とすることを、全会一致で採択しました。
世界の紛争地域において、生徒や教師、教育機関の校舎などが、軍や警察、非国家武装勢力により、攻撃の対象となり殺害され、傷つけられ、破壊されています。本オンラインイベントでは、攻撃を受ける教育の実態を写真や数値を使って紹介。参加型のアンケートや専門家からの説明を通し、どうしたら紛争下の教育を攻撃から守れるか考えてみませんか。

日 時

9月9日（水） 2020年
17:00～18:30

開催方法

オンライン※Web会議サービス「Zoom」を使用。
申し込みをされた方に参加用のZoomURLを開催30分前までにメールでお送りします。

申し込み

下記のリンクまたはQRコードより、参加申し込みをお願いします。

https://bit.ly/30PJ3Pv

定 員 要事前申し込み

先着 **100名**

申し込み締め切り：9月6日（日）17:00
※定員に達し次第締め切らせていただきます。



© UNICEF/UN0329269/Bindra
2019年6月26日、ブルキナファソ・ドリにて緊急攻撃訓練に参加する生徒たち

プログラム

1. 開会挨拶
   セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン事務局長　三好 集
2. 「教育を攻撃から守る国際デー」採択の背景とSDGs
   国連広報センター所長 根本 かおる 氏
3. 写真と数値から見る「攻撃される学校と生徒たち」
   （Education Under Attack2020より）
4. 投票機能を使った参加者の意見と専門家からのお話
   - 国際人道法の遵守に向けて
     赤十字国際委員会（ICRC）政治・政策顧問　榛澤 祥子 氏
   - 国内の機運を高めるために～学校保護宣言
     ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）日本代表　土井 香苗 氏
   - 国内での活動を進めるユースからのコメント
     セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンStop the War On Children（SWOC）ユース
5. 閉会挨拶
   小熊慎司衆議院議員　矢倉かつお参議院議員

裏面もご覧ください

教育を攻撃から守る国際デー



イエメン・タイズ県。空爆により破壊された教室で学ぶ少女たち

2020年5月28日、国連総会は、毎年9月9日を「教育を攻撃から守る国際デー(International Day to Protect Education from Attack)」とする決議を全会一致で採択し、紛争下における武力攻撃から教育を守り、紛争下においてもすべての人が安全な環境で教育を受けられるよう、世界各国が責任をもって取り組むことに改めて合意しました。今回の決議は、セーブ・ザ・チルドレンやヒューマン・ライツ・ウォッチがこれまでアドボカシー活動を行ってきた「学校保護宣言」(下記)の策定5周年にあたる日に行われ、同宣言についてもこの決議のなかで言及されています。

詳しくはこちら

子どもたちの声



2018 年8月9日、イエメンのサアダ県で起きたスクールバス空爆の破片やがれきを調べる少年

「お父さんはおもちゃと新しい通学カバンを買ってくれると言ってくれました。でも新しい通学カバンは欲しくありません。通学カバンなんて大嫌いです。スクールバスには近寄りたくもありません。バスなんて嫌で、学校なんて嫌で、眠れません。夢の中で友だちが助けてくれとすがりついてきます。だからこれからはずっと家にいることにします。」

これは、2018 年 8 月 9 日にイエメンで起きたスクールバス空爆の生存者、モクタールさん(8 歳)の言葉です。この日、50 人を超える生徒が乗ったスクールバスはイエメンのサウジアラビア主導の連合軍により攻撃され、少なく とも 51 人が死亡しました。

教育を攻撃から守るために

「学校保護宣言-Safe Schools Declaration-」とは、武力紛争下でも学校や大学は軍事目的で使用されるべきではないことを明示した国際的な指針です。教育を攻撃から守る世界連合(Global Coalition to Protect Education from Attack, 以下GCPEA)は、世界中の全ての人々が安心・安全な環境で学ぶことができる社会を目指し、2012年、「武装紛争下で学校や大学を軍事目的使用から守るためのガイドライン」の策定に着手しました。この動きは、2014年以降、ノルウェー・アルゼンチン両政府が主導する形で引き継がれ、2015年に「学校保護宣言」としてオスロ会合で発表されました。

2020年8月現在、世界の104ヶ国、G7の中では日本と米国を除くすべての国が、この「学校保護宣言」を支持しています。「学校保護宣言」には、主に右のようなことが述べられています。

しかし、GCPEAの最新調査によると、2015年から2019年の間に世界中で1万1,000件を超える教育への攻撃が確認され、学校が意図的に破壊されたりし、教師や生徒が殺害・拉致される被害も出ていると報告されています。

このような状況を少しでも減らすため、そして全ての子どもたちが安心・安全な環境で学べるよう日本政府としてのコミットメントを示すため、今、日本政府の「学校保護宣言」への支持が求められています。

1. 軍事利用の目的で、開校中の学校を使用することの禁止
2. 民間人が退去後の学校の使用は最終手段の場合のみとすること
3. 武装紛争下における学校の意図的破壊の禁止
4. 敵が軍事目的で使用している学校への攻撃をする際、事前警告をするなど代替手段の検討義務
5. 戦闘部隊による学校警備の原則禁止
6. 「武装紛争下で学校や大学を軍事目的使用から守るためのガイドライン」の実施

GCPEA Global Coalition to Protect Education from Attack

お問い合わせ

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　担当:大野、川口
TEL:03-6859-0015　japan.advocacy@savethechildren.org

【個人情報保護及び録画について】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、業務上取り扱う全ての個人情報は、個人情報保護法その他の法令並びに当団体の個人情報保護方針などに則り適正に管理します。お預かりする個人情報は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動の目的にのみに使用します。
ライブ配信の映像は録画をさせていただきます。録画映像を後日セーブ・ザ・チルドレンのWebサイトなどにて公開させていただく可能性がございます。